

33. 精神障害者ピアサポーターの育成支援 及び活動の可能性に関する研究

◎太田翔吾(兵庫県精神保健福祉センター) ○定兼未樹(兵庫県精神保健福祉センター)
藤田昌子(兵庫県精神保健福祉センター) 赤松佳代(兵庫県精神保健福祉センター)
高宜良 (兵庫県精神保健福祉センター) 酒井ルミ(兵庫県精神保健福祉センター)

【研究目的】

アメリカ合衆国では、「認定ピアスペシャリスト」という新たな職種が生まれ、運用がなされるようになった。その実践と研究から、サービス利用者と同様の体験をしたピアサポーターだからこそ提供できる支援が注目されている。

近年、日本においても北海道や長野県等の地域において、地域移行支援等でのピアサポーター活動が実践されてきた。ピアサポーターが持つ患者やサービス利用者と同様の体験は、従来のサービス提供者である専門職種には持ち合わせていないもので、その支援は重要な役割や機能を果たすことができる。またピアサポーターとしての活動は、活動する彼ら自身のリカバリー(疾患を持ちながらも充実した人生を送ること)にも繋がっている。

兵庫県においても一部の地域・機関による育成・活用の実践がなされるようになってきた。しかし、ピアサポーターがもたらす成果は認識しつつも、育成・活用方法等に不明瞭な点も多く、実施を見送っている機関も少なくない。これらの支援者の不安を軽減し、県下への普及を目的として本研究を実施する。

【研究計画】

① ピアサポーター育成研修・交流会

ピアサポートを行う上で重要なことを学ぶことで、兵庫県内でピアサポーター活動をしている、または活動したいと考えている精神障害者のスキルアップを目指す。また支援者には、当事者の取り組む姿勢や活動に対する熱意、力を感じてもらうとともに、支援者の役割について学んでもらう。さらに、交流会を実施することで、情報共有や、所属機関の枠を越えたピアサポーター同士のつながりを強化し、ピアサポーター活動の活性化を図る。

② アンケートの実施・結果の分析

ピアサポーター育成研修・交流会の参加者に対してリカバリーに関する意識調査を実施する。

③ 先進地の研修への職員派遣

ピアサポーター活動の先進地に職員を派遣し、現地での取り組みを学び、情報共有することで、県下のピアサポーター活動の推進を図る。

【今までの活動経過】

兵庫県精神保健福祉センターでは平成 22 年度に保健所、相談支援事業所、当事者を対象としたピアサポーターについての勉強会を開き、23 年度からピアサポーターの養成講座、

支援者研修等に取り組んできた。(兵庫県はピアサポーターについて、22年度までは県内の一部でのみ活動が行われており、内容も限局的であった。)

23年度と24年度は、ピアサポーター事業に積極的に取り組もうとしていた尼崎・伊丹地域に焦点を当てた。まず、地域の実情に合ったピアサポーター活動のあり方を検討するため、相談支援事業所、健康福祉事務所、市町、医療機関で連絡協議会を開いた(2年間で7回実施)。そこで話し合った上で、ピアサポートとは何なのか、どんな活動をしているのかという基礎的な内容で、当事者とその支援者を対象とした養成講座を行った。また今後の県下への普及を目指して県内全域を対象とした講演会も2回行っている。

25年度以降は、尼崎・伊丹地域については、従来行政が実施していた連絡協議会を、よりピアサポーターが活動する場に近い地域の相談支援事業所を中心として開催することとし、当センターは技術支援をする立場として関わっていくこととなった。同時に当センターは、研修の対象を全県に拡大し、25年度については当事者のための育成研修・交流会と支援者のための研修会を1回ずつ開催した。当事者からは「学ぶことが楽しかった」「病気になってずっと不安だったが1人でないと感じた」「自分になかった世界に一步踏みこめた感じがした」等の感想が出された。また支援者については、「そもそも当事者にこれだけの研修は耐えられない」「支援者は何をしたらいいのかわからない」というピアサポーター活動に対する消極的な考えから、「支援者の役割、支援者によるサポートの重要性を知った」「ピアサポーターが支援者に求めるものはなにかを考えていきたい」という前向きな考えへの変化が見られた。

そして26年度は、当事者の研修・交流会に取り組む姿勢や活動に対する熱意、力を支援者にも感じてもらうため、当事者と支援者の両方がともに学び、考える研修・交流会を企画した。

【実施内容】

ピアサポーター育成研修・交流会「リカバリーの学校 in 兵庫」

日時：平成26年11月15日(土) 10:30~16:45

参加者：ピアサポーター36名、支援者21名、家族1名

講師：リカバリーキャラバン隊

内容：

① 講義および体験談「リカバリーの物語」

講師にはIPSサービスの利用者、家族、支援者で結成されたボランティア団体である、リカバリーキャラバン隊を呼んだ。(IPSとは、当事者が「働きたい」と思ったタイミングで職探しを行い、実際に働く職場に合わせて支援を行うという、就労支援におけるアプローチの方法である。) その中の4名に今までのリカバリーにまつわる体験を語ってもらった。

② グループワーク

「長所のワーク」「私らしさを保つために」「私に必要な配慮」「目標と計画」をタイトルに、ワークシートを使いながら、グループで意見交換をした。

③交流会

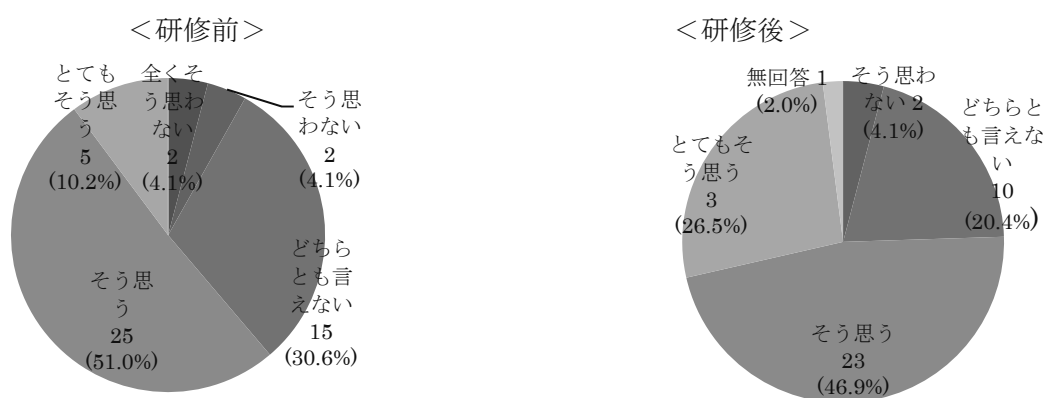
リカバリーキャラバン隊を交えてグループでフリートークをし、その後班ごとに発表してもらった。

【アンケート結果と考察】

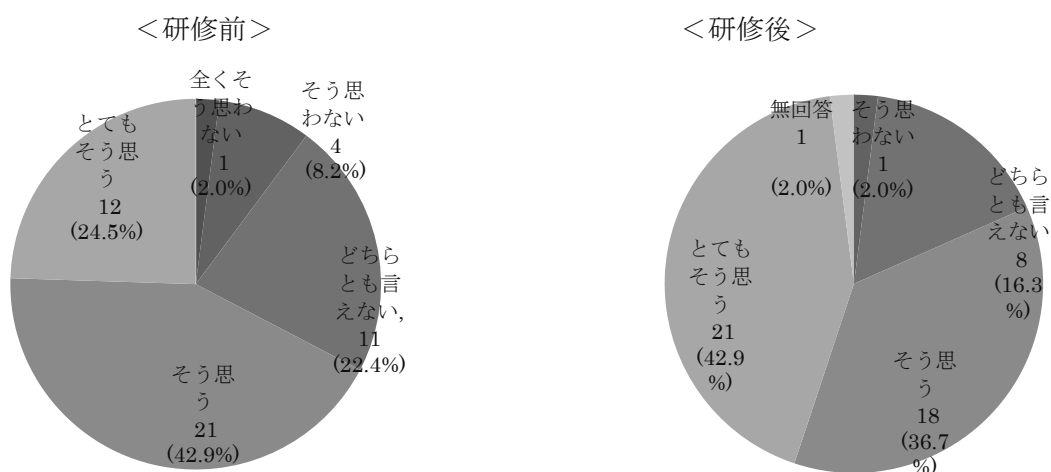
研修会開催の直前と直後について、参加者を対象に下記の通りリカバリーについての意識調査を行った。

回答は、①全くそう思わない、②そう思わない、③どちらとも言えない、④そう思う、⑤とてもそう思う、⑥無回答、の6つの中からの択一で、回答者は計49名である。

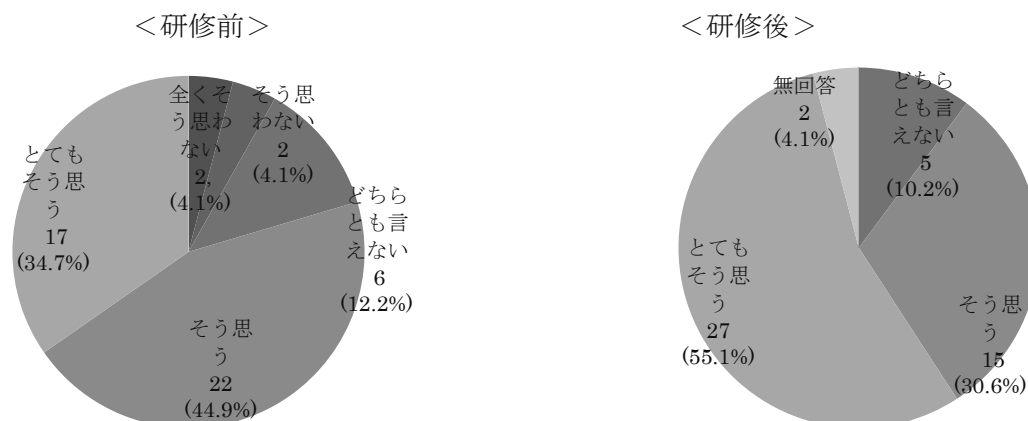
問1 精神疾患とともに豊かな生活を送れる具体的なイメージが持てる。



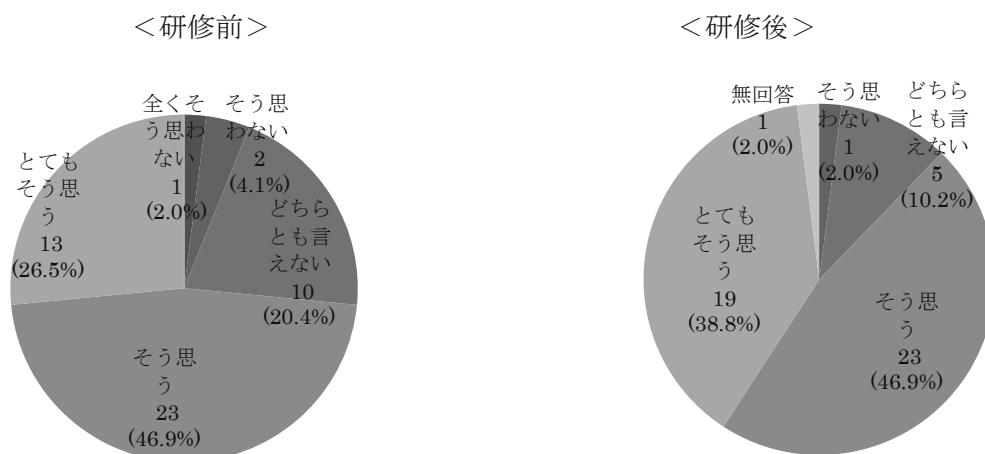
問2 どんな疾患・症状があっても充実した人生は可能だ。



問3 精神疾患がありながらも充実した生活を送っている人を知っている。



問4 自分も充実した人生は歩める。



各項目とも研修前と比較すると、研修後に前向きな回答が増えている。これはリカバリーキャラバン隊の体験談によって、参加者が、自分自身や支援対象者のリカバリーというものをよりイメージしやすくなったからだと考えられる。

このほか、自由記載では、当事者からは「ピアサポーターになることによって自己治療につながる」「今後もこのような研修を続けて欲しい」といった意見があった。また支援者からは「支援者があきらめてはいけないと改めて感じた」「本人の気持ちを大切にしながら力を信じて支援していきたい」などの感想があった。そして最も多かったのが、プログラム①で体験談を語った一人（以下Aさん）の「自分の人生は自分で決めないと」という言葉への反響だった。これは、Aさんが、長期入院で人生を諦めたこともあったが、「働いてみないか」という声をかけられたことをきっかけに思ったことだという。それはまさしく今までの精神科医療を物語っているもので、精神障害者が病院の中で閉じ込められ、受動的に生きていかざるを得なかったがゆえに、自分の希望や思いを表出することができず、

ついに思うことすらやめてしまったということなのではないだろうか。しかし A さんはここから実際に働き、今は体験談を語っている。働くことを決心できたのは、同じく入院していた別の当事者（以下 B さん）が働いていたからだという。B さんは A さんにとってリカバリーのモデルとなっていたのだ。

この研修を通じて、リカバリーキャラバン隊は参加者であるピアサポーターのリカバリーモデルとなり、またピアサポーターは今後、支援対象者のリカバリーモデルとなるであろう。ピアサポーター活動は、このようにリカバリーの連鎖によって無限の可能性を持ち合わせていると言える。

【まとめ】

本研究の目的は、支援者とピアサポーターが学び、交流できる場を提供することで、それぞれの不安を軽減し、県下のピアサポーター活動の活性化を図ることであった。アンケート結果からも分かるように、支援者、当事者ともに、ピアサポーター活動に対して意欲的な感想が多数あり、研修の継続を求める意見があった。実際の活動はまだまだこれからというところもたくさんあるが、着実に活性化に向けて前進していると考えられる。

しかし、ピアサポーターに対する意識は、同じ兵庫県内でも大きな地域差があることもわかっている。ピアサポーターについてほとんど知識や関心がない地域もあれば、すでにピアサポーターが病院や居宅に訪問し、地域移行・地域定着支援に尽力している地域もある。そこで、今年度からは、ピアサポーター活動の空白地帯と言われている地域での養成講座を企画している。内容としては、まずは当事者及び支援者が、ピアサポーターが何をしているのか、またどんなメリットがあるのかを知り、少しでも興味をもってもらうことがスタートであると考えている。そして、地域の状況、ニーズを把握しながら、段階を踏んだ研修を開いていくことで、ピアサポーターというものをこの地域に着実に根付かせることが今後の精神保健福祉センターの課題である。

【経費使途明細】

項目	金額
講師報償費(講師 4 名)	32,000 円
講師旅費(講師 4 名)	124,200 円
講師宿泊費(講師 4 名)	48,000 円
会場使用料	4,600 円
研修参加費(2 回)	10,148 円
研修参加のための旅費(2 回)	55,760 円
書籍購入費	20,662 円
事務用品代(文具他)	4,664 円
合計	300,034 円